

市の考えを問う 一般質問

12月9日・12日・13日の3日間行われた一般質問の主な質問（Q）と答弁（A）の概要を掲載します。



Q 市長の公約の進捗状況について

A 順調に進んでいる

金泉婦貴子 議員

質問一 生活圏をコンパクトにした人間中心のまちづくりについて。
二 水土里の交流圏構想の現状は。
三 未来を担う子どもを育てるまちづくりについて。
四 地域協働推進機構の事業と今後について。

答弁一（市長） 市内を徒歩と公共交通で移動できるようつるワゴン等を整備した。また、各公民館を地域の拠点施設とし、小学校区単位で地域協議会などの支え合いの仕組みづくりを進めている。

二 農業大学校移転後の跡地活用や高倉地区での自然・農地・農村景観を生かす取り組みなど持続的な農業の活性化に着手している。機敏かつ柔軟に取り組みを進める。

三 本年10月からこども医療費の窓口払いを廃止した。また、8つの学童保育室を12の学童保育室と4つの小規模学童保育室に分け、



市民体育祭に親子で参加

きめ細やかな保育を行った。
四 市民団体やNPO、企業などが連携・協力し、地域協働を進めるため、タウンシップの開発・運営を行い、市庁舎6階において社会起業家育成事業等も行っている。市が実施している事業で民間で行うことが効果的なものや、公共施設の管理運営なども今後の事業として進めていく。

質問一 本年度と昨年度の各会場の参加人数と参加自治会数は。
二 市民体育祭の開催目的は。
三 変更に伴う市の評価は。
四 今後の体育祭の在り方は。

答弁一（教育委員長） 鶴ヶ島中学校会場区2000人、藤中学校会場区3000人、西中学校会場区2800人の合計7800人が参加した。昨年度は全体で9450人が参加した。

参加自治会数は、鶴ヶ島中学校会場区20自治会中14自治会、藤中学校会場区47自治会中31自治会、西中学校会場区17自治会中16自治会であり、昨年度は全体で85自治会中79自治会が参加した。

二 協働・連携によるスポーツイベントの開催と地域コミュニティの活性化を目的とし、市教育振興基本計画を推進するための主要な施策と考えている。

三 会場によってばらつきのある参加者数の調整や地元自治会の負担軽減など一定の成果があった。しかし、運営方法を変更した年であり、変更に伴う戸惑いや課題も見られた。

四 参加自治会が減少したこともあり、アンケート等を参考にしながら、より多くの自治会や市民が参加できる方策を体育協会と協議していく。

A Q

3会場に変更された市民体育祭
多くの市民参加のため協議する

内野 嘉広 議員